

参院選1人区 統一候補 青森・山梨

新たに9選挙区で実現 さらに

夏の参院選にむけて、市民組織の後押しを受ける形で改選定数1人区での野党共闘が進んでいます。21日には、青森、山梨両県で、日本共産党と民主党、維新の党、社民党が統一候補でたたかうことで合意しました。これで32ある1人区のうち、九つの選挙区で統一が実現。野党5党は今後も、自民・公明与党とその補完勢力に勝利し、安倍政権を打倒するため、各1人区で共闘実現の努力を続ける構えです。

21日、日本共産党青森県委員会、民主党青森県総支部連合会、維新の党青森県総支部、社会民主党青森県連合の4党代表

は、田名部匡代（まさよ）予定候補を共同予定候補とすることで合意し、安保法制(戦争法)廃止、集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回を選挙公約にする、安倍政権打倒、現与党と補完勢力を少数に追い込む—などを内容とする覚書を確認しました。

山梨県でも、共産、民主、維新、社民の4党の代表と宮沢由佳（ゆか）予定候補が、安保法制廃止、集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回、立憲主義回復、安倍政権打倒、子育て・介護・教育・雇用での課題解決などを内容とする政策協定に調印しました。

これを受けて日本共産党は、よしまた洋（青森）、宮内げん(山梨)両氏の選挙区からの立候補を取り下げ、比例代表予定候補として活動することを発表しました。

野党統一をめぐるのは、昨年12月23日に、熊本県で、弁護士のあべ広美氏が市民ネット・野党5党の統一候補として出馬を表明。全国に先がけて、自公対野党の一騎打ちとなる選挙区となりました。

その後、戦争法廃止や国政選挙での協力などを確認した2月19日の5野党党首合意を

■野党統一が実現した選挙区(敬称略)

※3月21日現在

青森	田名部匡代	民主党公認
宮城	桜井 充	民主党公認
長野	杉尾 秀哉	民主党公認
山梨	宮沢 由佳	民主党公認
徳島・高知	大西 聡	無所属
長崎	西岡 秀子	民主党公認
宮崎	読谷山洋司	無所属
熊本	あべ 広美	無所属
沖縄	イハ 洋一	オール沖縄

◆衆院補選

北海道5区 池田 まき 無所属

※宮城選挙区の桜井候補のみ現職

受け、宮城（3月2日）、長野（3月7日）、徳島・高知（3月9日）、宮崎（3月17日）、長崎（3月18日）の各選挙区で野党統一の合意が決まりました。「オール沖縄」の伊ハ洋一沖縄選挙区候補とあわせ、現在までおよそ3分の1の1人区で歴史的な統一が達成されています。

4月12日告示、同24日投票の衆院北海道5区補選でも、野党5党と市民組織による無所属の池田まき予定候補が、参院選の前哨戦として自民公認候補を打ち負かすため奮闘しています。

現在、他の参院選1人区でも、野党間の協議が進められており、統一候補が順次、決まる予定。新潟選挙区では、民主党がくら替え出馬を決めていた菊田真紀子衆院議員の擁立を断念する方針を決めるなど、統一にむけた動きが加速しています。

日本共産党の志位和夫委員長は18日に開かれた党大阪演説会で、「残りの1人区でも、といねいに協議し合意をはかり、1人区すべてで統一候補を実現し自公とその補完勢力に打ち勝つために全力をあげる」と表明。比例での850万票・8人以上の当選、改選定数2～6人区での勝利をめざすとともに、1人区でのたたかいにも力を注ぎます。

2016年3月22日(火)

参院統一候補 4野党で

山梨 宮沢由佳さん

宮内氏 比例予定候補

に

安保法制（戦争法）の廃止、立憲主義の回復のため、夏の参院選山梨選挙区（改選数1）での選挙協力を協議してきた日本共産党山梨県委員会、民主党山梨県総支部連合会、維新の党山梨県総支部、社会民主党山梨県連合の4党代表と、民主党宮沢由佳（ゆか）選挙区予定候補（53）＝社会福祉法人理事長＝は21日、甲府市内で「政策協定書」に調



（写真）協定の調印後、健闘を誓う4党の代表と宮沢氏（中央）。（右端は日本共産党の花田仁県委員長）＝21日、甲府市内

印し、4党は選挙区候補を宮沢氏に一本化してその当選に全力をつくすことで合意しました。

政策協定は、(1)安保法制廃止、集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回および立憲主義の回復をめざす(2)安倍政権の打倒をめざす(3)子育て、介護、教育および雇用における課題解決に力を尽くす(4)さまざまな分野における格差解消を図り、暮らしの安心安全をめざす(5)今後も中央の5野党協議もふまえ、協定の実現、政策的一致が広がるよう努力する—の5項目です。

4党統一候補の誕生に伴い、共産党は同党選挙区候補の宮内げん氏を比例代表予定候補に変更します。

調印後、宮沢氏と握手を交わした宮内氏は「戦争法廃止に向けた統一候補の実現を歓迎します。心を一つに選挙区での野党勝利に奮闘し、比例での共産党躍進に全力をあげる」と決意を語りました。

市民の中での統一候補を求める世論と運動に呼応して、1月中旬、共産党県委員会は県内各野党に協議開始を提案しました。これを受けて民主党県連が4野党の協議を提唱。その後、4回にわたって話し合いを重ねてきました。

青森 田名部匡代さん

よしまた氏 比例予定

候補に

青森県の日本共産党、民主党、維新の党、社民党4党代表は21日、青森市内で4項目の「覚え書」を確認し、参院選青森選挙区予定候補の田名部匡代（まさよ）氏（民主党公認）を4野党共同候補とすることで合意しました。

記者会見には、日本共産党の畑中孝之県委員長、民主党の田名部定男県連代表、維新の党の升田世喜男県代表、社民党の三上武志県連代表が出席しました。



（写真）握手する（右から）三上、畑中、田名部、升田の4党代表＝21日、青森市

「覚え書」の内容は(1)戦争法廃止と集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を選挙公約とし、安倍政権打倒、補完勢力を少数に追い込む(2)参院選青森選挙区勝利にむけ協力をおこなう(3)上記以外の政策課題は引き続き協議・合意形成に努力する(4)4党協議会を設置し開催する—の四つ。

畑中県委員長は、「合意は県民の世論と運動の力によるもの。日本の新しい政治の展望を開く第一歩だと確信している。国民の願いに応え、勝利めざし胸を張ってたたかう」と決意を表明し、よしまた洋選挙区予定候補は比例予定候補として活動していくと発表しました。

田名部代表は、「4党の連携を密にして必ず勝利したい」、升田代表は「画期的で価値ある日。結束を大事にし、参院選勝利したい」、三上代表は「歴史的な合意。総力あげ頑張っていく」と述べました。

2016年3月22日(火)

衆院北海道5区補選 5野党女性議員ら訴え

平和の願い 池田さんへ

衆院北海道5区補選(4月12日告示、24日投票)での野党統一候補・池田まきさん(43)勝利をめざして21日、日本共産党、民主、維新、社民、生活の5野党女性国会



(写真) 声援に応える(左から)森、太田、辻元、池田、高橋、山内の各氏=21日、北海道江別市

議員らが江別市、北広島市でそろって、訴えました。

日本共産党の高橋千鶴子衆院議員は「憲法より自分が偉いと言う安倍総理。一刻も早く退場してもらわなければならない。戦争法廃止、立憲主義回復の願いを、池田まきさんに託してください」と力を込めました。

「5野党の共同は野合じゃない。安倍政権対国民のたたかいだ」(民主党・辻元清美衆院議

員)、「安倍政権はやりたい放題。こんな政権の存在は許せない」(維新の党・太田和美衆院議員)、「親の貧困格差が子どもの希望格差になっている。オスプレイを買わないで子どもの生活保障を」(社民党・山内恵子元衆院議員)、「子どもたちの未来のためにみんなで力を合わせよう」(生活の党・森ゆうこ前参院議員)と訴えました。

池田予定候補は「シングルマザーの2人に1人が貧困です。私もその1人でした。頑張ってきたのは憲法があったから。ずっと平和を守りたい。一人を大切にする政治を行っていききたい」と訴え、聴衆から拍手と声援が起きました。

2児のママ(34)は「戦争法は絶対反対。池田さんを市民の代表として国会へ送りたい」と話していました。

2016年3月20日(日)

総がかり実行委 戦争法廃止求め集会

市民＋野党で政権包囲

「戦争法廃止のために声をあげ続ける」「選挙で市民に寄りそう政治家を選びたい」。高校生、ママ、視覚障害者、日本弁護士連合会や日本キリスト教団の代表、日本医師会の前会長らのスピーチに、会場から大きな歓声が起きました。戦争法強行から半年の19日、総がかり行動実行委員会が東京・日比谷野外音楽堂で開催した大集会と銀座パレード。参加した5600人(主催者発表)は「戦争法廃止」とかかれたプラカードを掲げ、「参院選は野党が勝利」「野党も市民もまとまるぞ」とコールしました。

2000万署名 東京事務所分だけで500万



(写真)「戦争法絶対廃止」とコールする総がかり日比谷大集会の参加者＝19日、東京・日比谷野外音楽堂

直前に雨が弱まった集会は、プレイベントから満席に。戦争法廃止を求める2000万

署名が、東京にある同実行委員会事務所に集まっただけでも500万人になったことが報告されました。

開会あいさつした「戦争をさせない1000人委員会」の福山真劫（しんごう）さんは、今年の中心的な取り組みは「市民運動で安倍政権を包囲すること、衆参の選挙で野党を勝利させること」だと強調。「たたかう野党を全力で支えよう」と訴えました。

高校生団体「T - n s S O W L（ティーンズソウル）」のメンバー（16）がスピーチしました。「政治を行うのは国会だけではありません。主権者である国民の力が必要です」

日弁連の福山洋子弁護士は、日弁連と全国52ある単位弁護士会で戦争法反対の活動を続けていると紹介。日本医師会前会長の原中勝征（かつゆき）氏は「野党連合で、国民のためにならないものはすべてやめてもらおう」と訴えました。

日本共産党の小池晃副委員長、民主党の枝野幸男幹事長があいさつしました。小池氏は「自公とその補完勢力を少数派に追い込むために、市民のみなさんとたたかいぬく」と呼びかけました。社民党の吉田忠智党首、生活の党の小沢一郎代表のメッセージが紹介されました。

実行委員会は、6月5日に大規模全国行動を実施することを発表しました。

この日は全国各地で集会やデモなどがおこなわれました。

戦争法廃止求め大集会

小池・枝野氏があいさつ

日比谷野外音楽堂で開かれた大集会で、日本共産党の小池晃副委員長、民主党の枝野幸男幹事長があいさつし、社民党の吉田忠智党首、生活の党の小沢一郎代表のメッセージが紹介されました。

小池氏は、戦争法施行を前に、内戦状態の南スーダンで自衛隊が武器使用を拡大することや、過激武装組織ISへの空爆支援など、現実の危険性が高まっていると指摘。「一日でも早く廃止しなければ、“殺し殺される国”になってしまう」と強調しました。自民党の中に憲法改悪の衝動が高まっているとして、「参院選は、戦争法廃止か、解釈・明文改憲で戦争国家への道をつきすすむのかが正面から問われる」と強調。「民主党、維新の党、社民党、生活の党と固く力をあわせて、自民・公明と補完勢力を国会で少数に追い込むために、市

民のみなさんと心一つにたたかいぬく」と表明しました。

枝野氏は、5野党党首の合意をふまえて、「もっと急げという意見もあると思うが、お互いの違いをすりあわせて、結論を出していくのが民主主義だ。そのかわり最大のたたかいである選挙には必ず間に合わせる」と語りました。

吉田氏は「安倍暴走政治をストップさせるために、参院選に勝利しよう」、小沢氏は「安倍政権を倒せるのはみなさんしかいません。この国の民主主義を守るため、戦前のような国に戻さないため、声をあげてください」とメッセージを寄せました。